

環境活動レポート

平成25年度(実施期間 : 2013年5月~2014年4月)

2014年9月3日 発行



株式会社飯塚鉄工所



エコアクション21
認証・登録番号0001052

1. 環境方針

(株)飯塚鉄工所は以下の環境方針を定めています。

環境方針

基本理念

株式会社飯塚鉄工所は、金属部品加工製造業として自然との調和を意識し、環境問題を認識すると共に、環境経営システムを構築・運用し維持することにより継続的な改善に取り組む。

活動方針

1. 当社は環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守し、可能な範囲で環境保全に取り組む。
2. 資源・エネルギーの消費の適正化(二酸化炭素排出量削減)に努める。
 - ・電力消費量の削減
 - ・化石燃料の削減(灯油、ガソリン)
3. 廃棄物の削減と、資源としての再利用を進める。
 - ・一般及び産業廃棄物の分別の徹底
 - ・リサイクル率の向上
4. 水資源投入量の適正化に努める。
 - ・水使用量の削減
5. 環境に優しい物品への取替えを進める。(グリーン調達の実施)
この環境方針達成のため、環境教育や必要な訓練により、全従業員に周知徹底を図る。

2014年5月1日

株式会社 飯塚鉄工所

代表取締役 飯塚肇

2. 組織(事業所)の概要

① 事業者名及び代表者名

株式会社 飯塚 鉄工 所
代表取締役 飯塚 肇

ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~eiizuka>

② 所在地

(本社及び工場) 〒945-0813
新潟県柏崎市半田3丁目15番16号

(安田工場) 〒945-1355
新潟県柏崎市安田3228番地1

(軽井川工場) 〒945-1356
新潟県柏崎市軽井川931番42



③ 認証・登録範囲

軽井川工場は認証・登録対象外とし、その他組織・全活動を対象とする
(軽井川工場は、2016年までに拡大予定。)

④ 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 中村 秀一

E A 2 1 事務局
連絡担当者

総務部 中町 亜希

TEL 0257-23-5611

FAX 0257-23-2813

⑤ 事業の内容

金属部品加工製造

流体機器

：コントロールバルブ組立・部品加工

：ポンプ組立・部品加工

：一般特殊機械の部品加工及び制作

真空機器

：真空バルブ・部品加工

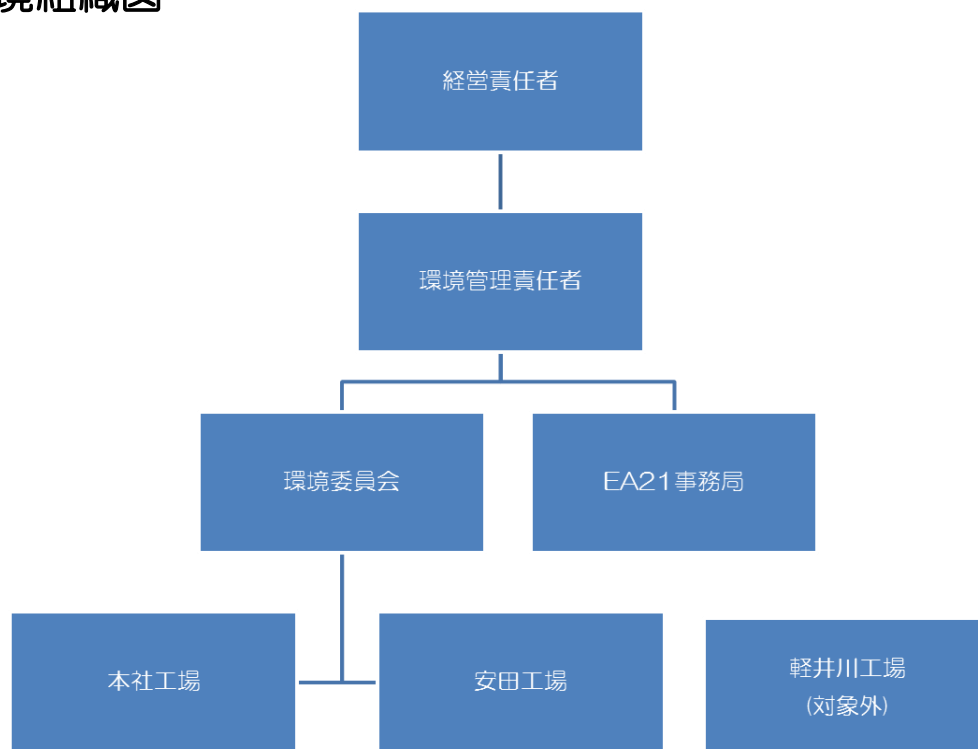
医療機器

⑥ 事業の規模

従業員数 92人 (2014年9月2日現在)
(本社 47人 安田工場 30人 軽井川工場 15人)

敷地面積 本 社 (延べ 1714.49㎡)
安田工場 (延べ 1586㎡)
軽井川工場 (延べ 1200㎡)

3. 環境組織図



各工場に1名 環境委員を置き、
環境管理責任者を委員長とした「環境委員会」を設置し、活動している。

4. 環境目標

環境目標	目標基準値(2010年度)	目標(3年間)	2011年度	2012年度	2013年度
Co2排出量の削減	393.24(t-Co2)	3%削減	2%削減	2.5%削減	3%削減
電気使用量の削減	4807.4(kwh/h)	3%削減	2%削減	2.5%削減	3%削減
化石燃料使用量の削減(ガス)	2.76(m3/h)	3%削減	2%削減	2.5%削減	3%削減
化石燃料使用量の削減(燃料)	150.45 (燃料)(L/人)	3%削減	2%削減	2.5%削減	3%削減
廃棄物の分別徹底	95%	95%	95%	95%	95%
リサイクル率の向上	75%	75%	75%	75%	75%
水使用量・排水量の削減	20.61 (m3/人)	3%削減	2%削減	2.5%削減	3%削減
グリーン調達の実施	59%	59%	59%	59%	59%
納期確保率の向上	-	-	現状把握	現状把握	現状把握

目標数値設定・・・同月比で2010年度と比較しました。

5. 2013年度における環境目標とその実績（全社）

項 目	目標	実績	評価	項 目	目標	実績	評価
① Co2排出量の削減 (t-Co2)	381.70	408.67	未達成	⑥ リサイクル率の向上	75%	91%	達成
② 電気使用量の削減 (Kwh/h)	4662.82	4631.95	達成	⑦ 水使用量・排水量の削減 (m3/人)	19.98	15.68	達成
③化石燃料使用量の削減 (ガス) (m3/h)	2.69	2.95	未達成	⑧ グリーン調達の実施	59%	56%	未達成
④化石燃料使用量の削減 (燃料) (L/人)	145.93	120.07	達成	⑨ 化学物質の適正な管理	PRTR該当物質使用量ゼロの為数値設定なし		
⑤ 廃棄物の分別徹底	95%	100%	達成	⑩ 納期確保率の向上	現状把握		

5- (1) 目標設定値

①②③④⑦は対2010年度使用量2.5%減比、④⑤⑥⑧は目標値より。

5- (2) 各項目換算式。

①Co2排出量の削減目標値 (t-Co2) = 対2010年度比3%減(排出係数 0.469kg-Co2/kwh)

Co2排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は2008年度の東北電力株式会社の実排出係数0.469kg-CO2/kWhを使用した。

②電気量削減目標値 (Kwh/h) = (2010年度月次使用量/2010年度月次平均稼働時間)×0.97

③化石燃料削減(ガス)目標値 (m³/h) = (2010年度月次使用量/2010年度月次平均稼働時間)×0.97

④化石燃料削減(燃料)目標値(L/人) = 2010年度月次使用量 (L) / 従業員数×0.97

⑤廃棄物の分別の徹底 (分別率算出 (%)) = (本社工場達成率+安田工場達成率) / 2
 (本社工場) 分別達成日数 / 稼働日数 × 100
 (安田工場) 廃棄量 / (廃棄量+分別不能量) × 100

⑥リサイクル率の向上 (リサイクル率算出 (%)) = A / (廃棄量+A) × 100
 「A=ダンボールストック量+パッキンストック量」

⑦水使用量・排水量の削減 (m3/h) = (2010年度月次使用量/2010年度月次平均稼働時間)×0.97

⑧グリーン調達の実施 グリーン調達率 (%) = エコマーク商品 / 全購入品 × 100

2013年度の結果

従業員・設備の増加や生産面の変化により、2010年度比較ですとどうしても未達成という結果が多く見受けられましたが、全体の意識は向上しています。

また、本年も大雪により電力消費が増加傾向にありました。

様々な環境の変化にも目を向け、対策を講じることができるよう今後も検討していきたいと思っております。

目標基準値年度とその後の目標年度の従業員数増加や、設備投資による設備の入れ替え、生産数の変動による稼働率の上昇など、削減への取り組みとして数値的に結果を出すには難しいと感じています。

使用数値の監視はひきつづき行いますが、目標設定は業務とリンクしたものに2014年度以降は変更していきたいと思っております。

6. 環境活動計画の内容

目標項目	内 容	2013年度の実績結果	2014年度の実績内容
① 廃棄物の分別徹底	• 種別ごとにBOXを設置する。	廃棄物の分別を徹底できた	継続して行う。 また、引き続き軽井川工場の廃棄物に関しては本社へ持込処理する。
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	徹底できた。	
	• 設置場所を確保する。	徹底できた。	
	• 分別種別表の掲示及び環境管理責任者によるチェック・評価。	徹底できた。	
② リサイクル率の向上	• 種別ごとにBOXを設置する。	徹底できた。	継続して行う
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	徹底できた。	
	• ダンボール・パツ材は再利用不可と判断されたときに廃棄し、それ以外は出荷用としての再利用・製品の下敷など社内間での再利用に努める。	積極的に再利用に努めた	
	• 両面使用済コピー用紙や油が染みて再利用不可の物以外の梱包使用済みの新聞紙・広告は、シュレッダーにかけ、梱包資材として再利用する。	緩衝材として有効利用するよう心掛けた	
③ 電気使用量の削減	• 未使用時の積極的な電源OFFに努める。 昼休み時・終業時は必ず行い、機械未稼働時にも必要なければ電源OFF。 パソコン等OA機器も同様。	徹底できた	継続して行う
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	徹底できた	
④ 化石燃料使用量の削減 (ガス)	• 未使用時の消火の徹底。	徹底できた。	継続して行う
	• 未使用時・終業時のガス栓閉の徹底。	点検項目に入れ確認した	継続して行う
	• 給湯器の無駄な使用を抑えるよう心がける。	周知徹底を心掛けた	呼びかけを行い徹底を図る
⑤ 化石燃料使用量の削減 (燃料)	• 社用車を使用する際には「社用車点検日報」記入し使用状況を確認する。	使用者は必ず記入し適切に管理した	工場増設により使用頻度は増えるが、なるべく使用量を減らすように努力する。
	• 本社⇄安田工場を行き来する用件をなるべくまとめて回数削減。	緊急時を除き設定した	
	• 部門比較は灯油使用時【冬季のみ】とする。	冬季の灯油仕様も極力抑えた	
⑥ 水使用量・排水量の削減	• 使用量を測定する。	徹底できた	継続して行う
	• 節水管理の徹底をする。	徹底できた	
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	徹底できた	
⑦ グリーン調達の実施	• エコマーク商品の購入時の選定	購入時、エコマーク商品を選ぶよう周知徹底を心掛けた	カタログ等表記のあるものを参照に展開していく。
その他	内 容	2012年度の実績結果	2014年度の実績内容
内部コミュニケーション	• 環境委員会の開催。	情報収集を行った	今後も継続して行う
	• 金曜午後より環境当番による環境当番会議の実施。	情報収集を行った	
	• 全社員該当のキリコ周り清掃当番の実施。	徹底できた	
	• 始業前点検・月一回メンテナンス日の設定・実施。	徹底できた	

7. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

① 法規制遵守状況の適合性評価・遵守状況

- (1) 騒音規制法・・・指定地域外の為非該当。自主規制値で遵守する。
- (2) 振動規制法・・・指定地域外の為非該当。自主規制値で遵守する。
※ (1)(2)については2006年に柏崎市に依頼し測定済。いずれも自主規制値以下であった。
- (3) 下水道法・・・指定使用数量以下なので特定工場非該当。
下水道に有害物質が流出しない施設になっている。
- (4) 水質汚濁防止法・・・特定施設非該当。
※ (3)(4)については2006年に上越環境科学センターに依頼し水質調査済。法定値以下であった。
- (5) 浄化槽法・・・保守点検・清掃（業者委託）
- (6) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律・・・マニフェストを活用。適正処理実施。
- (7) 容器リサイクル法・・・廃棄物の減量・適正処理及び有効活用。
- (8) 家電リサイクル法（廃棄時）・・・適正処理。
- (9) 自動車リサイクル法・・・引取業者への適正な引渡し。
- (10) グリーン購入法・・・環境への負荷の低減に資する製品購入割合促進。
- (11) 消防法・・・灯油について「柏崎市火災予防条例第46条」に基づき届出をした。
- (12) 高圧ガス保安法・・・指定数量以下なので届出不要。但し規制は遵守。
- (13) 環境条例・・・遵守している。
- (14) 労働安全衛生法・・・労働者の安全と健康の確保に努めている。

② 違反・訴訟等

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

8. 2013年度の活動に対する代表者による評価・見直しの結果

代表者が2014年5月より交代となりました。

現状はエコアクション21の維持・継続を行うとのことでした。

また、基本理念や活動方針は今後見直しの機会が設けられるかもしれませんが、現状維持で行います。

9. 2014年度の全社重点目標

2014年度は品質改善からエコにつなげる活動にしていきたいと考えております。

生産と直結した目標設定する予定です。不良が減れば無駄なコストも減るなど、実活動につながるものにしていきたいと思っています。

また、過去3年間の重点目標であった「工場内をクリーンに」を継続しつつ、管理体制も強化していきたいと思っています。

「目で見える管理」を行いつつ、社員の意識向上や提案意欲を高めていきたいと思っています。

また、電気料金の値上げ等コスト面でもだんだんと厳しい状況化が増えていきます。

「無駄のない生産体制」を構築し、コストにも環境にも優しい企業体制で活動していきます。